

名前

兵庫県は2022年度、先端技術を駆使して農産物の品質向上や栽培の省力化を図る「スマート農業」の普及に向け、最新技術と機器、産地が抱える課題を公開するサイトを設ける。課題を解決できそうな企業を募り、産地とつなぐ狙い。双方の相談に応じる専門家をアドバイザーに招き、取り組みを加速させる。

(山路 進)



県、22年度 企業と産地つなぐ専用サイト

22年度当初予算案で、スマート農業技術のマッチング推進費用として510万円を計上した。

農業の現場では人手不足が深刻化している。ドローンを使う種まきや農薬散布、上空から撮った画像から生育のむらを解析して肥料の量を調節する「可変施肥」、田んぼの給排水の自動制御、リモコン操縦の草刈り機、無人運転のトラクターなど、さまざまな技術開発が進んでいる。

ビニールハウスなどの施設向けにも、カメラによる生育分析や自動収穫、温度湿度の自動制御の技術が

このため県は、最新の農業機械や栽培に精通した専門家1人をアドバイザーに任命する。

アドバイザーはサイトに集まる技術や機械の情報を分析し、産地を回って課題を調べて最適な組み合わせを提案する。24年度まで年20カ所ずつ調査して、計15カ所ですべて導入する方針。

県は30年度、コメや麦などの農地で導入率約30%に当たる1万2千畝、施設でも20%の60畝に引き上げる目標を掲げている。県総合農政課の担当者は「それぞれの課題をカバーできる最新技術を導入し、産地の維持や活性化につなげたい」と話している。

コメや麦の農地 導入面積わずか4%弱 スマート農業普及へ本腰



酒米「山田錦」の種をまくドローン＝2021年6月、三木市口吉川町殿畑



運転席に人が乗らずに、自動で農地を耕すトラクター＝2021年6月、丹波篠山市福住

①「スマート農業」を説明する次の文章に言葉を入れましょう。

先端技術を駆使して農産物の や栽培の を図る

②その普及のために兵庫県はどのような取り組みをしますか。次の文章に言葉を入れましょう。

と 、産地が抱える を公開する を設ける
課題を解決できそうな を募り、 とつなぐ狙い
双方の相談に応じる専門家を に招き、取り組みを加速させる

③農業の現場で深刻化しているのは何ですか。

④どのような技術開発が進んでいますか。個条書きで書きましょう。

⑤県が掲げている30年度のスマート農業の導入率の目標は、現在の何%から何%ですか。

コメや麦などの農地 % → %、ビニールハウスなどの施設 % → %

⑥スマート農業について調べ、新しい技術を考えてみよう。